

# 組織評価の実施要項

高知大学

平成 26 年度

## 目 次

はじめに	1
I 組織評価の指針	2
II 自己評価報告書 (平成 26 年度 組織評価報告書)	5
III 次年度計画書 [平成 27 年度の①改革目標 (Chance) ②計画 (Challenge) の設定]	17

## はじめに

わが国における大学評価は、平成3年の大学設置基準の大綱化に伴い自己点検・評価が努力義務規定として設けられたことに始まり、平成11年の大学設置基準の一部改正により自己点検・評価とその結果の公表が義務化された。そして、昨今の国立大学法人法による中期目標に係る業務実績に関する評価や、学校教育法による認証評価など本格的な第三者評価が実施されるに至った。これら大学評価は、教育・研究をはじめとする大学機能の自己改善に資することを第一の目的とするが、納税者や社会に対する説明責任を果たす視点からも行われる。国立大学法人高知大学は、このような大学改革の流れを真摯に受け止めて、主体性と自律性に立脚した「改善のための内部評価システム」を構築した。本学の内部評価は、「組織評価」と「個人評価」の両輪からなる。

「組織評価」は、各部局における教育・研究・社会貢献・学部等運営・診療における諸活動が、各部局の理念と目的を実現するために、どれだけの成果をあげているかを自己点検・評価するものである。各部局の活動は、単に構成員の活動の総和のみではなく、組織としての活動が大きなウエイトを占める。このため、個人評価の「教員の総合的活動自己評価報告書」の部局集計だけでなく、組織としての活動の自己点検・評価が必要である。

「組織評価」は、各部局の組織としての活動を問うものである。

組織評価の実施方法に関しては、試行錯誤を繰り返して改善していく必要があり、現時点のものは、「進化する評価システム」のスタート段階に過ぎない。今後、[多くの助言](#)をもとに、より良いものへと改良していかねばならない。

なお、平成24年度組織評価より「課題発見・解決」の観点を加えた。具体的には、「自己評価報告書」に自らの組織の課題を記載する欄を、「次年度計画書」に自己評価報告書に記載した課題に対する課題解決の取組を記載する欄をそれぞれ設けた。平成25年度組織評価からは、前年度の課題に対する取組状況を記載する欄を「自己評価報告書」に追加する。

「課題発見・解決」の観点を加えることにより、各部局が自らの問題点を発見し、解決の方向性を検討する自律的な評価体制を構築する。

# I 組織評価の指針

## 1 評価方法

本学における大学改革の基本姿勢として、4つのC（Chance, Challenge, Create and Change）が提唱されている。① Chance は改革目標、② Challenge は計画、③ Create は成果、そして、④ Change は次年度の改革目標である。各部局は、この4つのCのもとに組織の自己点検・評価を行い、自己評価報告書と次年度計画書を、評価改革機構を通じて役員に提出する。また、自己評価報告書については、本学ウェブサイトの「評価改革機構」のページにて学外へ公表する。

各部局は、各部局の理念と目的に基づいて、自ら、年度始めに今後一年間の ① 改革目標（Chance）と② 計画（Challenge）を策定する。年度末に、活動の ③ 成果（Create）を自己点検評価し、④ 次年度の改革目標（Change）を立てる。

## 2 評価項目

教育と研究は、大学の社会機能の両輪である。また、組織として機能していくための学部等運営、社会貢献（国際交流も含まれる）も要求される。さらに、医学部においては附属病院における診療活動も社会機能として要求される。そのため、教育、研究、学部等運営、社会貢献、診療活動を組織評価の評価項目とする。

### （1）教育活動の評価

各部局は、各部局の理念・目的から、より具体的に記述された教育目的（数項目からなる箇条書き）を設定して明示する。その教育目的から、年度始めに ① 改革目標（Chance）と② 計画（Challenge）を設定する。年度末に、教育成果を集計して、組織としての自己点検評価（③ 成果（Create）と④ 次年度の改革目標（Change））を行う。教育成果の記述は、具体的な例や数値を挙げて行うものとする。

### （2）研究活動の評価

各部局は、各部局の理念・目的から、より具体的に記述された研究目的（数項目からなる箇条書き）を設定して明示する。その研究目的から、年度始めに ① 改革目標（Chance）と② 計画（Challenge）を設定する。年度末に研究成果を集計して、組織としての自己点検評価（③ 成果（Create）と④ 次年度の改革目標（Change））を行う。研究成果の記述は、具体的な例や数値を挙げて行うものとする。

### (3) 社会貢献（国際交流等を含む）活動の評価

各部局は、各部局の理念・目的から、より具体的に記述された社会貢献（国際交流等を含む）目的（数項目からなる箇条書き）を設定して明示する。その目的から、年度始めに①改革目標（Chance）と②計画（Challenge）を設定する。年度末に、社会貢献（国際交流等を含む）活動の成果を集計して、組織としての自己点検評価（③成果（Create）と④次年度の改革目標（Change））を行う。成果の記述は、具体的な例や数値を挙げて行うものとする。

### (4) 学部等運営活動の評価

各部局は、各部局の理念・目的から、より具体的に記述された学部等運営活動の目的（数項目からなる箇条書き）を設定して明示する。その目的から、年度始めに①改革目標（Chance）と②計画（Challenge）を設定する。年度末に、学部等運営活動の成果を集計して、組織としての自己点検評価（③成果（Create）と④次年度の改革目標（Change））を行う。成果の記述は、具体的な例や数値を挙げて行うものとする。

### (5) 診療活動の評価（病院長が統括）

医学部附属病院は、その理念・目的から、より具体的に記述された目的（数項目からなる箇条書き）を設定して明示する。その目的から、年度始めに①改革目標（Chance）と②計画（Challenge）を設定する。年度末に、診療活動の成果を集計して、組織としての自己点検評価（③成果（Create）と④次年度の改革目標（Change））を行う。成果の記述は、具体的な例や数値を挙げて行うものとする。

## 3 組織評価の実施

評価単位は、各学部（学部附属施設を含む）、医学部附属病院（診療活動のみ）、大学院総合人間自然科学研究科の各専攻、教育研究部の各部門、学内共同教育研究施設、全国共同利用施設、保健管理センター、共通教育実施機構とする。

組織評価は、各部局の長が責任をもって実施し、報告書の作成にあたり部局構成員に協力を要請する。その際には、各教員のプライバシーを尊重しなければならない。

各部局は、平成26年度組織評価報告書を、電子媒体で、平成27年7月末までに、法人企画課評価室宛に提出する。

## 4 学外へ公表する組織評価（自己評価報告書）の項目

各部局の取り組み状況やその成果を、「組織評価」のファクターを通じて公表することにより説明責任を果たし、さらに各部局の成果を広く社会にアピールするため、平成25年度

から自己評価報告書の学部等運営を除く，教育，研究，社会貢献，診療の各活動について，「目的」，「成果」の2項目を公表する。

組織評価を行う各部局等の長は，個人情報に係るものや非公表にすべき情報に注意し自己評価報告書を作成するものとする。

※組織（部局）評価の総合組織評価（自己評価）や「課題」，「達成度」，「学長等への要望等」の項目については，公表しないこととする。

## Ⅱ 自己評価報告書

### (平成 26 年度 組織評価報告書)

組織（部局）名：

組織長（部局長）：  
(組織評価の責任者名)

提出日：平成 27 年 月 日

#### 組織（部局）評価の対象者

職名	総数	女性教員数(内数)	外国人教員数(内数)
教授			
准教授			
講師			
助教			
その他（ ）			
合計	人	人	人

#### 総合組織評価（自己評価）

評価分野	活動比率 (%)	評点 (AA, A, B, C, D)	傾斜評点 (比率×評点)
教育活動			
研究活動			
社会貢献活動			
学部等運営活動			
診療活動			
合計	100		( /500)

自己評価の評点 (AA=5, A=4, B=3, C=2, D=1)

組織全体としての活動比率 (%) (Total 100%)

## (1) 教育活動の組織評価

### (1) -1 教育目的（前年度に作成したものを記載） **[公表項目]**

1)
2)
3)
4)

### (1) -2 平成26年度の教育活動における成果（Create）について

#### ① 改革目標（Chance）：教育活動（前年度に作成したものを記載） **[公表項目]**

--

#### ② 計画（Challenge）：教育活動（前年度に作成したものを記載） **[公表項目]**

1) 教育実施体制の整備・改善
2) 教育内容の改善
3) 教育方法の工夫
4) 学業成果向上への取組
5) 進学・就職への取組

#### ③ 成果（Create）：教育活動（A4 2～4枚程度） **[公表項目]**

<b>分析項目1) 教育の実施体制</b>
観点①：教育目的を達成するために、教育内容、教育方法の改善に向けた体制が整備され、どのような取り組みが行われたか。その結果、どのような改善・向上に結びついたか。
(例)FDの体制、内容・方法や実施状況。その結果による授業内容・方法の改善の状況など。



<p><b>分析項目 2) 教育内容</b></p> <p>観点①：学生の多様なニーズ，社会からの要請等（学術の発展動向を含む）に対応した教育課程の編成に配慮しているか。  (例) 他学部・他専攻等との履修あるいは単位互換の状況，留学プログラムの整備・実施状況，キャリア教育・インターンシップの実施状況など</p>
<p><b>分析項目 3) 教育方法</b></p> <p>観点①：教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。  (例) 講義，演習，実験，実習等の授業形態がバランス良く行われているか。適切なシラバスが作成されているか。TA/RA が活用されているか。</p>
<p>観点②：学生の主体的な学習を促す適切な取組が行われているか。単位の実質化（授業時間外の学習時間の確保，組織的な履修指導，履修科目の登録上限設定等，学生の主体的な学習を促し，十分な学習時間を確保するような工夫のこと）への配慮がなされているか。</p>
<p>観点③：外国語の授業は行われているか。  (外国語の授業の比率と外国語授業名を記載してください。)</p>
<p><b>分析項目 4) 学業の成果</b></p> <p>観点①：学生が身に付けた学力や資質・能力はどの程度だったか。  (例) 単位取得状況，進級状況，卒業・修了状況，学位取得状況，資格取得状況，受賞状況など</p>
<p>観点②：学業成果に関する学生の評価はどうか。</p>
<p><b>分析項目 5) 進路・就職の状況</b></p> <p>観点①：卒業（修了）後の進路・就職状況から判断して，教育成果があがっているか。  (例) 職業別・産業別・地域別の就職状況（就職率含），進学状況</p>
<p>観点②：卒業生や就職先等の関係者からの評価から判断して，教育成果があが</p>

っているか。

(1) -3 教育活動における課題

(1) -3-i 平成 25 年度の教育活動における課題の取組状況

(平成 25 年度の組織評価において記した課題が、平成 26 年度中にどの程度取り組み・達成されたか)

(1) -3-ii 平成 26 年度の教育活動における課題

(1) -4 教育活動の達成度を AA-D で評価し、1つを選択して○で囲む。

- AA 目標を上回る成果であった。
- A 目標に十分に到達している。
- B 目標におおむね到達しているが、改善の余地もある。
- C 目標にある程度到達しているが、改善の余地がある。
- D 目標への到達が不十分であり、大幅な改善の必要がある。

(1) -5 学長等への教育活動面における要望等 (A 4 1枚程度)

## (2) 研究活動の組織評価

### (2) - 1 研究目的（前年度に作成したものを記載） **[公表項目]**

1)
2)
3)
4)

### (2) - 2 平成 26 年度の研究活動における成果（Create）について

#### ① 改革目標（Chance）：研究活動（前年度に作成したものを記載） **[公表項目]**

--

#### ② 計画（Challenge）：研究活動（前年度に作成したものを記載） **[公表項目]**

1) 組織（部局）が重点的に取り組む研究プロジェクト
2) スタッフによる研究活動を活性化するための取組
3) 外部から研究資金を獲得するための取組

#### ③ 成果（Create）：研究活動（A 4 2～4 枚程度） **[公表項目]**

<b>分析項目 1) 研究活動の実施状況</b>
観点①：組織（部局）が取り組む研究プロジェクト
観点②：スタッフによる研究活動の実施状況 (例) 論文・著書等の研究業績や学会での研究発表の状況，特許の出願・取得状況，共同研究の実施状況，受託研究の実施状況
観点③：研究資金の獲得状況 (例) 科研費，競争的外部資金，共同研究，受託研究，寄付金，寄付講座

<b>分析項目 2) 研究成果</b>
観点①：組織（部局）を代表する優れた研究成果
観点②：研究目的に照らして、関係者の期待に応える成果があがっているか。

(2) -3 研究活動における課題

(2) -3-i 平成 25 年度の研究活動における課題の取組状況

(平成 25 年度の組織評価において記した課題が、平成 26 年度中にどの程度取り組み・達成されたか)

(2) -3-ii 平成 26 年度の研究活動における課題

(2) -4 研究活動の達成度を AA-D で評価し、1つを選択して○で囲む。

- AA 目標を上回る成果であった。
- A 目標に十分に到達している。
- B 目標におおむね到達しているが、改善の余地もある。
- C 目標にある程度到達しているが、改善の余地がある。
- D 目標への到達が不十分であり、大幅な改善の必要がある。

(2) -5 学長等への研究活動面における要望等 (A 4 1枚程度)

--

### (3) 社会貢献活動の組織評価

#### (3) -1 社会貢献活動の目的（前年度に作成したものを記載）【公表項目】

1)
2)
3)
4)

#### (3) -2 平成26年度の社会貢献活動におけるにおける成果（Create）について

##### ① 改革目標（Chance）：社会貢献活動（前年度に作成したものを記載）【公表項目】

--

##### ② 計画（Challenge）：社会貢献活動（前年度に作成したものを記載）【公表項目】

1) 組織（部局）が取り組む社会貢献プロジェクト
2) スタッフによる社会貢献活動を促進するための取組

##### ③ 成果（Create）：社会貢献活動（A4 1～2枚程度）【公表項目】

<b>分析項目1) 社会貢献活動の実施状況</b>
観点①：組織（部局）が取り組む社会貢献プロジェクト
観点②：スタッフによる社会貢献活動の実施状況 (例) 学外における教育活動，講演会，審議会活動，産学官連携，ボランティア活動，審査員，学会・シンポジウムの開催，外国の大学・学術組織との交流，在外研究，留学生・外国人研究者の受け入れ，UN，JICA，NGOでの貢献，技術指導など
<b>分析項目2) 社会貢献活動の成果と効果</b>
観点①：組織（部局）が取り組む社会貢献プロジェクトの成果

観点②：組織（部局）を代表する優れた社会貢献
観点③：関係者の期待に応える成果があがっているか。

(3) -3 社会貢献活動における課題

(3) -3-i 平成 25 年度の社会貢献活動における課題の取組状況

(平成 25 年度の組織評価において記した課題が、平成 26 年度中にどの程度取り組み・達成されたか)

(3) -3-ii 平成 26 年度の社会貢献活動における課題

--

(3) -4 社会貢献活動の達成度を AA-D で評価し、1つを選択して○で囲む。

- AA 目標を上回る成果であった。
- A 目標に十分に到達している。
- B 目標におおむね到達しているが、改善の余地もある。
- C 目標にある程度到達しているが、改善の余地がある。
- D 目標への到達が不十分であり、大幅な改善の必要がある。

(3) -5 学長等への社会貢献活動面における要望等 (A 4 1枚程度)

--

#### (4) 学部等運営活動の組織評価

##### (4) -1 学部等運営活動の目的 (前年度に作成したものを記載)

1) 2) 3) 4)
----------------------

##### (4) -2 平成 26 年度の学部等運営活動における成果 (Create) について

###### ① 改革目標 (Chance) : 学部等運営活動 (前年度に作成したものを記載)

--

###### ② 計画 (Challenge) : 学部等運営活動 (前年度に作成したものを記載)

1) 組織 (部局) が重点的に取り組む運営計画
2) スタッフによる学部等運営活動を促進するための取組

###### ③ 成果 (Create) : 学部等運営活動 (A 4 1 ~ 2 枚程度)

<b>分析項目 1) 学部等運営活動の実施状況</b> 観点① : 組織 (部局) が取り組んだ運営上の工夫
<b>分析項目 2) 学部等運営活動の成果と効果</b> 観点① : 組織 (部局) が取り組んだ運営上の工夫の成果
観点② : 関係者の期待に応える成果があがっているか。

(4) -3 学部等運営活動における課題

(4) -3-i 平成 25 年度の学部等運営活動における課題の取組状況

(平成 25 年度の組織評価において記した課題が、平成 26 年度中にどの程度取り組み・達成されたか)

(4) -3-ii 平成 26 年度の学部等運営活動における課題

(4) -4 学部等運営活動における達成度を AA-D で評価し、1つを選択して○で囲む。

- AA 目標を上回る成果であった。
- A 目標に十分に到達している。
- B 目標におおむね到達しているが、改善の余地もある。
- C 目標にある程度到達しているが、改善の余地がある。
- D 目標への到達が不十分であり、大幅な改善の必要がある。

(4) -5 学長等への学部等運営活動面における要望等 (A 4 1枚程度)



## (5) 附属病院における診療活動の組織評価

### (5) -1 診療活動の目的（前年度に作成したものを記載） **【公表項目】**

1)
2)
3)
4)

### (5) -2 平成26年度の診療活動における成果（Create）について

#### ① 改革目標（Chance）：診療活動（前年度に作成したものを記載） **【公表項目】**

--

#### ② 計画（Challenge）：診療活動（前年度に作成したものを記載） **【公表項目】**

1) 附属病院が重点的に取り組む診療活動
2) スタッフによる診療活動を促進するための取組

#### ③ 成果（Create）：診療活動（A4 1～2枚程度） **【公表項目】**

<b>分析項目1) 診療活動の実施状況</b>
観点①：附属病院が取り組んだ診療活動上の工夫
観点②：スタッフによる診療活動の実施状況 (例) 患者数, 手術数, 時間外診療, 特殊検査, 地域医療貢献など
<b>分析項目2) 診療活動の成果と効果</b>
観点①：附属病院が取り組んだ診療活動上の工夫の成果
観点②：附属病院を代表する優れた診療活動

観点③：関係者の期待に応える成果があがっているか。

(5) -3 診療活動における課題

(5) -3-i 平成 25 年度の診療活動における課題の取組状況

(平成 25 年度の組織評価において記した課題が、平成 26 年度中にどの程度取り組み・達成されたか)

(5) -3-ii 平成 26 年度の診療活動における課題

(5) -4 診療活動の達成度を AA-D で評価し、1つを選択して○で囲む。

- AA 目標を上回る成果であった。
- A 目標に十分に到達している。
- B 目標におおむね到達しているが、改善の余地もある。
- C 目標にある程度到達しているが、改善の余地がある。
- D 目標への到達が不十分であり、大幅な改善の必要がある。

(5) -5 学長等への診療活動面における要望等 (A 4 1枚程度)

### Ⅲ 次年度計画書(Change)

#### [平成 26 年度の ①改革目標 (Chance) と ②計画 (Challenge) の設定]

視点：改革目標 (Chance), 成果 (Create) からみて次年度の改善目標を  
どのように考えるか。

組織 (部局) 名：

組織長 (部局長)：  
(組織評価の責任者名)

提出日：平成 27 年            月            日

組織 (部局) 評価の対象者

職 名	総 数	女性教員数(内数)	外国人教員数(内数)
教授			
准教授			
講師			
助教			
その他 (     )			
合計	人	人	人

## (1) 教育活動

### (1) - 1 教育目的

(理念等から具体的な教育目的を抽出し、簡条書きする。)

#### 組織(部局)の教育目的

1)
2)
3)
4)

### (1) - 2 平成 27 年度の教育活動における 2 つの C (①Chance, ②Challenge) について (A 4 2 ~ 3 枚)

<b>① 改革目標 (Chance) : 教育活動</b>
<b>② 計画 (Challenge) : 教育活動</b>
1) 教育実施体制の整備・改善
2) 教育内容の改善
3) 教育方法の工夫
4) 学業成果向上への取組
5) 進学・就職への取組

### (1) - 3 平成 26 年度の教育活動における課題解決の取組

--

## (2) 研究活動

### (2) - 1 研究目的

(理念等から具体的な研究目的を抽出し，箇条書きする。)

#### 組織（部局）の研究目的

1)
2)
3)
4)

### (2) - 2 平成 27 年度の研究活動における 2 つの C (①Chance, ②Challenge) について (A 4 2 ~ 3 枚)

<b>① 改革目標 (Chance) : 研究活動</b>
<b>② 計画 (Challenge) : 研究活動</b>
1) 組織（部局）が重点的に取り組む研究プロジェクト
2) スタッフによる研究活動を活性化するための取組
3) 外部から研究資金を獲得するための取組

### (2) - 3 平成 26 年度の研究活動における課題解決の取組

--

### (3) 社会貢献活動

#### (3)-1 社会貢献活動の目的

(理念等から具体的な社会貢献活動の目的を抽出し、箇条書きする。)

組織(部局)の社会貢献活動の目的

1)
2)
3)
4)

#### (3)-2 平成27年度の社会貢献活動における2つのC(①Chance, ②Challenge)について(A4 1~2枚)

<b>① 改革目標(Chance): 社会貢献活動</b>
<b>② 計画(Challenge): 社会貢献活動</b>
1) 組織(部局)が取り組む社会貢献プロジェクト
2) スタッフによる社会貢献活動を促進するための取組

#### (3)-3 平成26年度の社会貢献活動における課題解決の取組

--

## (4) 学部等運営活動

### (4) - 1 学部等運営活動の目的

(理念等から具体的な学部等運営活動の目的を抽出し、箇条書きする。)

組織（部局）の学部等運営活動の目的

1) 2) 3) 4)
----------------------

### (4) - 2 平成 27 年度の学部等運営活動における 2 つの C (①Chance, ②Challenge) について (A 4 1 ~ 2 枚)

<b>① 改革目標 (Chance) : 学部等運営活動</b>
<b>② 計画 (Challenge) : 学部等運営活動</b>
1) 組織（部局）が重点的に取り組む運営計画
2) スタッフによる学部等運営活動を促進するための取組

### (4) - 3 平成 26 年度の学部等運営活動における課題解決の取組

--

## (5) 附属病院における診療活動

### (5) - 1 診療活動の目的

(理念等から具体的な診療活動の目的を抽出し、箇条書きする。)

#### 附属病院の診療活動の目的

1) 2) 3) 4)
----------------------

### (5) - 2 平成 27 年度の診療活動における 2 つの C (①Chance, ②Challenge) について (A 4 1 ~ 2 枚)

<b>① 改革目標 (Chance) : 診療活動</b>
<b>② 計画 (Challenge) : 診療活動</b>
1) 附属病院が重点的に取り組む診療活動
2) スタッフによる診療活動を促進するための取組

### (5) - 3 平成 26 年度の診療活動における課題解決の取組

--